



緩和ケアは今もなお多くのカナダ人に誤解されています。ここでは我々がよく耳にする緩和ケアに関する10の誤解についてお話しします。

緩和ケアに関する10の誤解

誤解1：緩和ケアは死期を早める。

事実: 緩和ケアによって死期が早まることはありません。緩和ケアでは進行した疾患の診断を受けている方にも、最後の時まで質の良く、快適な生活を送ることができます。



誤解2：緩和ケアは末期がんに侵されている人のための場所である。

事実: 緩和ケアは死期を早める可能性のある病気の診断を受けた患者やその家族のためのものです。



誤解3：緩和ケアで食べるのをやめた人は、飢餓で亡くなる。

事実: 緩和ケアの患者が食欲をなくすのは、病気により食欲が低下するためです。つまり患者が亡くなるのは、飢餓ではなく、病気によるものです。



誤解4：緩和ケアは病院でのみ提供される。

事実: 緩和ケアは患者の住むところ(自宅・長期ケア施設・ホスピス・病院)で提供されます。



誤解5：子供たちは死や死にゆくことから遠ざけて守られるべきである。

事実: 大人たちがそうであるように、死や死にゆくことについて話すことは、子供たちが死に対する健全な態度を養うことを助けます。大人たちと同様に、子供も大切な人に別れを告げる時間が必要なのです。



誤解6：痛みは死にゆくときに経験されるものである。

事実: 死にゆくときには常に痛みが伴うのではありません。死期が近づき痛みが感じられるようであれば、痛みを緩和する様々な方法があります。



誤解7：緩和ケアで鎮痛剤を摂取することは依存につながる。

事実: 患者に快適な生活を送ってもらうために、鎮痛剤の投与を増やさなければならないことはよくあります。これは依存によるものではなく、体に薬への耐性ができることによるものです。



誤解8：モルヒネは死を早めるために投与される。

事実: 適切な量のモルヒネは患者が快適な生活を送るためのものであり、死を早めるものではありません。



誤解9：緩和ケアを受けることは、医師が治療を諦め、希望がなくなったということである。

事実: 緩和ケアは重症の患者に質の良い生活を約束します。希望とは治療からの回復をだけを意味するのではなく、最後の時までできる限り充実した生活を送ることでもあるのです。



誤解10：家で最後の時を迎えないことは、家族を失望させる。

事実: 患者が必要としていることは自宅で提供できる範囲を超えることがあります。どこで行われるかにかかわらず、最適なケアがなされることは重要です。

